

---

# 此処に神がいました

オリオン

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

此処に神がいました

### 【Nコード】

N7940X

### 【作者名】

オリオン

### 【あらすじ】

俺は、二十八歳のお金持ち俺は朝起きたら真っ白い空間にいた。なに、死んだ？しかもパソコンが頭に落ちて？  
H U Z A K E N N Aこの作品は、僕の初小説です。至らない点などもあります。どうぞよろしく願います

## 俺の一日(前書き)

R15と残酷な表現は念のためです。ないかもしれません。





「おつかれ」

そう、受付男性に（言われて帰った

「さあ、寝るか」

そう言っって俺は、布団に入った。

.....

朝起きたら、俺は真っ白い空間にいた。

## 俺の一日(後書き)

この作品は、初投稿、初連載なので  
至らぬ点が多々あります。

ご指摘、ご指導お願いします。

## 俺死んだんだ

やあ、皆の田崎誠だよ。

今俺は、変な所にいる。真っ白くて何も無い歩いても進まない。浮いているのか？立っているのか？

倒れているのか？わからない。

ふう、これはまさかのあの展開？

「君が田崎誠君？」

俺の、真後ろから声がした。

「誰だ！」

振り向くといかにも 神様の なおじいさんがいた。

「わしか？わしは、神様じゃ」

自称 神様 は、自分の白い長い髭をこすりながらそう言った。

「やっぱり。」

俺は、驚かされた。

「驚かないんじゃないな」

キタアーーーーこの質問やっぱり神様だよこの人

「なんじゃ、信じておらんかったのかい」

ビクッ

「心も読まれた！」

はい確定イ

「ええ、まあ突然神様だなんだの言われたら」

俺は、落ち着いて話した。

「それもそうかの」

はっはっはと言いながら髭をなでた。

「で、俺はどうしてここに？あなたの手違い？それとも死んで？それとも別の理由で

ですか？」

俺は、俺が知っているいくつかのパターンを言ってみた



## 俺死んだんだ（後書き）

作・二話め投稿完了です。

誠・今気がついたんだがポイントがあつたぞ

作・ほんとか！やつた〜（涙）

誠・ほんとだなこんな糞文を見てくれるひとがいるなんてえ

作・ちよ、それはないでしょ誠

作・おつともうこんな時間だ

誠・それじゃあ

誠&作・さようなら

俺今度こそ異世界へ！

俺は、またあの空間にいた・・・

「やあ、ひさしぶりってさっきも話したばかりじゃけどね。」

うざ、なにこのテンションマジウザ

「ま、それは置いといて、これから異世界転生についての希望をとります。能力については最後にしてくれ」

キタアアアアアアアアやっも行ける。

「では、最初の希望をとるどんな世界が良い？」

これは、もうきまている。

「俺が、プレイしていたVRMMOの世界に」

やっぱ慣れ親しんだ世界が良い

「じゃが、少し変わるぞ」

「なぜだ？」

なぜ同じじゃいけないんだああああああああ

「なぜってお主お主以外がNPCだったらどうなる」

あ

「すみません、ギルドへはどうやって行けばいいんですか

「ん、広場か？それなら・・・」

「いや、広場じゃなくてギルド」

「ん、ひ」





「ええ、お願いします」

十分五．．．

「よし、準備が出来た」

「ありがとうございます」

そう言い終えたときに体が光り始めた

「最後に、二度目の人生楽しむんじゃぞ」

「ええ」

そう言うと僕は、完全に元の世界からも神様がいたところからも姿を消した

## 登場人物設定1まだ主人公しかないけど

田崎誠 二十八歳

性別男

性格温厚だけどキレると怖い

ステータス

HP無限

魔力無限

攻撃力数値化不可

防御力数値化不可

魔法攻撃力数値化不可

魔法防御力数値化不可

特殊能力

1 武器・防具創造

2 特殊効果付与（武器・防具）

3 思考読み取り

4 念話

5 自己再生

6 視力化不可能物体、生命体、物質、等視力化

7 生物創造

8 自己年齢操作

称号

神、創造主、ジョブマスター、スキルマスター、スペルマスター

所持金

白金貨一万枚、金貨一万枚、銀貨二万枚、銅貨二万枚、100000

キル

解説

キルは一円、一銅貨で百キル、一銀貨で百銅貨、一金貨で百銀貨  
一白金貨で百金貨

図解

一 白金 〓 百億キル

一 金貨 〓 一千万キル

一 銀貨 〓 十万キル

一 銅貨 〓 十万キル

装備

武器 無

防具 無

アクセサリー 不思議なカバン リュック型のカバン空間圧縮の魔法が刻まれていてポケット一つ一つにかかっている。

説明

とにかくすごいやつ神

異世界の絶対神

神様から能力を貰わなくてもけっこう強い

異世界の神になったから特典が . . . . .

チートを超えたチート？

## 俺の子育て日記

やっと俺の世界に来た。神降臨！

「さてと、始めますか！」

俺は、まず大地と空、海と大陸、山や川、湖、森等を作り最後にこの世界に魔力の源とそれを管理する別世界俺たち神の家とも呼べる小規模な世界 ユグドラシル と魔力の源を作った。作った時に出て来てしまった副産物が二つできてしまった一つは、魔物 こいつ等は自我がなく神（俺）を襲ってきやがったただがら殲滅したたのにどんどん出てくる仕方ないので、それらを管理する 魔界 作ったそこで俺は、魔界にも長が必要だと思ひある一人の魔物に自我を与えたそいつに頼むことにしたそいつはとてもいいやつで快く受けてくれた。

「わかりました。私めが魔界を取り締まりましょう神よ」と、このように。

「よせやい、神だなんて誠と呼んでくれよ。」

「ではわかりました。じゃあ誠様」

「ん、なんだ？」

「私に名をくれませんか？」

「よし、わかった！お前は神に仕える友の龍略して略して神龍 バロツクだ」

「は、ありがとうございます。」

「では、これで俺はやらねばならないことがあるんだ」

「わかりました」

「最後に・・・、頑張れよ」

そして、魔界を後にしたここ来て質問がある人？

ん、なんで注文した以外の能力が使えるかって？それは、神になった時の副産物みたいなものです。

じゃあ、終了

そしてもう一つの副産物は 精霊 それは、気高く、意思はあったものの爆発的に増え殺すのもなんだから長を決め、そいつに管理させる 精霊界 を与えバロックと同じ下りがあった。名前は、シルフだ。

「人を作ろう」

種族は、獣人、エルフ、人間だ。全員同じ大陸に置きある程度そつだたら別の大陸に行くよう脳にセットした。

そして、俺は家に帰り俺のサポートをする。四神を作った。

時と空間を司る神 時空神 トパーズ

大地を司る神 地神 ガイア

闇を司る神 闇神 アメジスト

光を司る神 光神 エレミナ

の成人を作ろうとしたら種族の子供たちが気になって・・・は！

M A T I G A E T A 全員子供にしてみました。（癒されたくて

皆女の子だけ）これからどーるの??????

俺の子育て日記（後書き）

作・いやー誠がロリだとは思ってなかったな

誠・ちがワイ

作・しかもロリハーレムとはププッ

誠・死ね寧々ねん江寧々念ね

作・意味不なんですけどおおおおおおおぐえ

誠・作者が死んだところで

作・死んどらんはぼけえええええ

誠・チッ

作・ねえ今チッて言ったよねねえ

誠・また次号くくく

作・ねええええええええええええ

## 俺の子育て初日

「おじさんだれー？」

今心の傷になるような発言をしたのがトパーズ。

「誰なの？」

のほほんとしたしゃべり方のガイア

「誰だよっ」

つつこんできたのがアメジスト

「.....」

無口なのがエレミナ

さあ、どのように答えようか

あ、ちなみにこの子たち不老ね、不老と言ってもある程度年をとるが

「君たちのお父さんだよ。」

「.....お父さん？」

「そう父親。君たち名前わかる？」

うなずいた、わかるみたいだ。

まあ、この世界のすべての知識は作る時に入れただけね

「よし、それならいいこれから君たちに説明することをちゃんと聞いてね」

「.....わかった(〜).....」

「君たちは、この神の居城ユグドラシルの四神だ。しかし、俺の手違いで成熟する前の姿で生まれてきてしまった。なのでこれから十二年間は俺と暮らし、俺と食い、俺と寝、俺と風呂に入り、俺と遊ぶ、こうして生きて貰う。特に決まりもない、しかし約束の十二年がたったら人間の世界で暮らしってもらう」

六年間それから二百年間は、神の代行として仕事をしてもらう。ここまでで、わからないことは？」

「はい」

エレミナだ

「なんだ？」

「なぜ私たちは人間の世界で暮らさんければいけないんですか？」

「それはね、エレミナ」

俺は、頭をなでながら言った

「最初の三年で人間の世界の全大陸、全種族をその目で見て欲しいからだよ、聞いた時は最悪と思ったけど見たら違う、見たいなこともあるからね。後の三年は、人間の世界の学校に行っってほしいからだよ。仲間、友人どんなものか見て欲しいんだ」

大丈夫、こちらの一年は向こうの千年だから

「わかりました／＼／＼」

ん、顔お赤らめてる

「熱でもあるのかい？」

俺は、手を額にあてた。

「っだ大丈夫」

「そうかならない」

おっともうこんな時間か

「よしっ、今日はもう遅いからここまで続きは明日、飯にしよう！」

「『『『『やったー！』『』『』』」

俺は、飯を食い風呂に入れた。

「ねえ、お父さん」

トパーズだ

「お父さんは神様なの？」

「そうだよ。」

「ふうんー」

なんだよ

「さあ、もう遅いから寝よう。」

「『『『『はい』『』『』』」

そうして俺たちの一日は終わった。」

## 俺の子育て日記2

あれから、十一年たった。とびすぎ？書くことがなかったんだからね！そして今は十一回目の三人会議をしている。

「バロック魔界の状況はどうなっている？」

「最近になって知恵のある魔物や人語を喋れる魔物が増えてきました。それらを総称して 魔族 と呼ぶことにしました今日は連れてきています。この子たちです」

そういうと扉の外から七人の人影が出てきた。

「この娘たちが一番強いです。」  
ほお

「この娘たち七人を私は 七つの大罪 と呼んでいます。左から傲慢のルシファー、嫉妬のリヴァイアサン、憤怒のサタン、．．．．．（長いかツラカット）以上の七人は名前と同じような特技を待っていますですの結構強いです。」

結構かわいいのが揃っているじゃないか

「誰このおっさん？」

訂正かわいくない

「こら！この人は私の父でありお前らの父であるぞ」

父ちゃんまんねん創造主やねん

「そっだったんですか！とんだ御無礼尾（何でこんなやつに頭を下げなきゃいけないんだよ）」

心y¥の声ただ漏れ

「シルフ精霊界はどうだ」

「こちら魔界とあまり変わりません」

ふうっ

「今回はこれでお開きまた来年！」

「ハッ」「



下界に降りるか(前書き)

久々に書いてみようと思います。

## 下界に降りるか

約束の十二年がたった。トパーズ達は、皆十二歳になった。明日にでも下界したに行く準備をすませねば。

「みんな、ごはんだよ」

「「「「はい」」」」

話そう

「皆聞いてくれ。昨日約束の十二年がたった。明日にでも出発しようと思う」

もぐもぐ「準備すればいいの？」

「ああ」

こうして飯は食い終わった

「さて何を持って行こうか」

ここでアンケートを取りたいと思っています。

主人公の防具・武器・アクセサリを持っていくアイテムなど後呪文や特技・体技・等も募集しています。そのほかの事もどんどん募集中で待っています。



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7940x/>

---

此処に神がいました

2011年12月20日22時49分発行